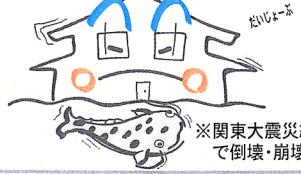


構造の安定

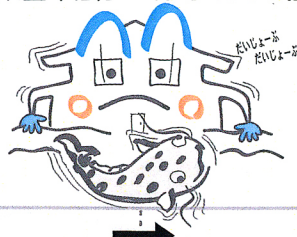
耐震等級 (倒壊等防止)

等級1
建築基準法レベル
(震度6強~7程度に耐える)

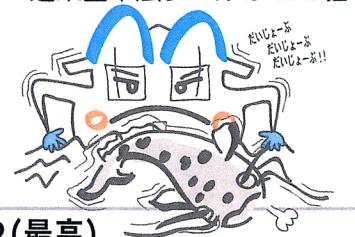


※関東大震災級の揺れで倒壊・崩壊しない

等級2
建築基準法レベルの1.25倍

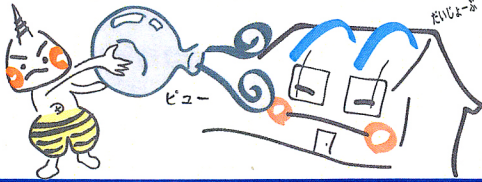


等級3(最高)
建築基準法レベルの1.5倍

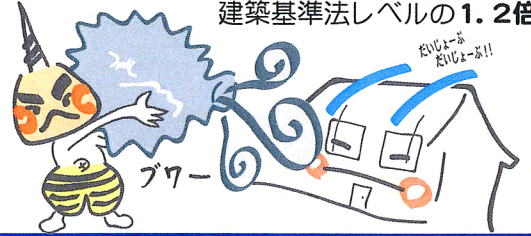


耐風等級

等級1
建築基準法レベル(最大風速50m/s程度に耐える)
※1991年19号台風・伊勢湾台風級の風速で倒壊・崩壊しない



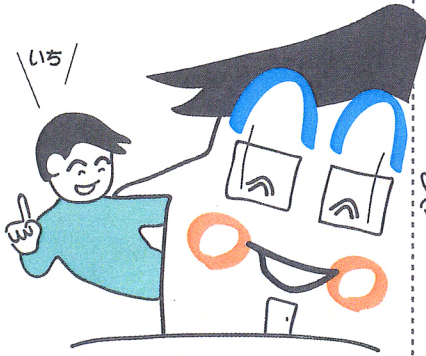
等級2(最高)
建築基準法レベルの1.2倍



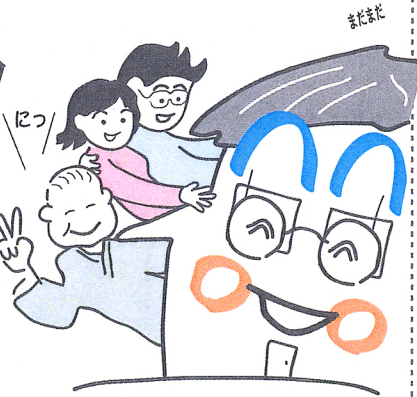
劣化の軽減

劣化対策等級 (構造躯体等)

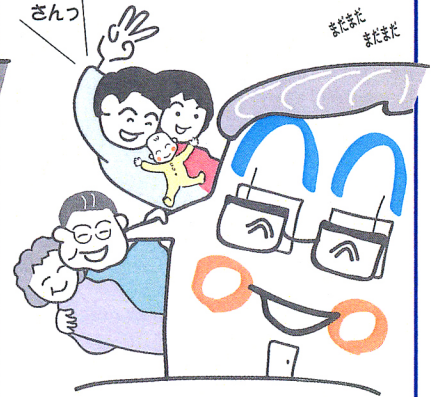
等級1
建築基準法に定める対策



等級2
2世代に渡る耐久性
※おおむね50~60年



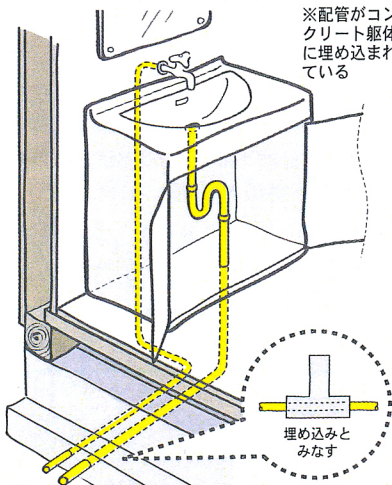
等級3(最高)
3世代に渡る耐久性
※おおむね75~90年



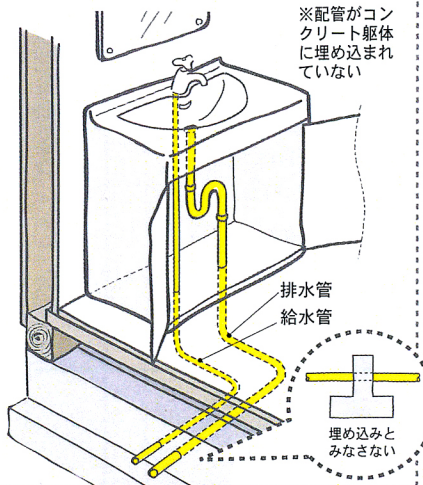
維持管理への配慮

維持管理対策等級 (専用配管)

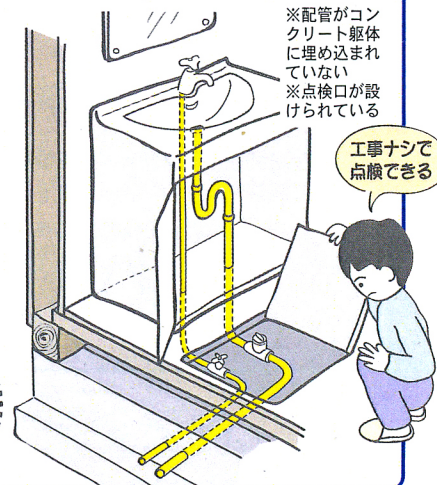
等級1
等級2に満たない



等級2
基本的な措置



等級3(最高)
特に配慮した措置



温熱環境

省エネルギー対策等級

等級1

等級2に満たない

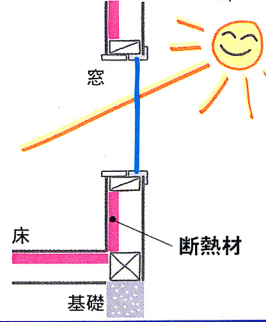


省エネルギー対策等級は、断熱化・気密化対策の仕様によって決まります。これらの仕様は、結露やダニ、カビの発生しにくさだけでなく、冷暖房費の削減にも関わってきます。

※MJ/m²とは、床面積当たりの熱量の単位です。年間冷暖房負荷1000MJ/m²とは、冷暖房をエアコンで行なった場合、75m²程度の住宅において、電力料金15万円程度/戸に相当します。

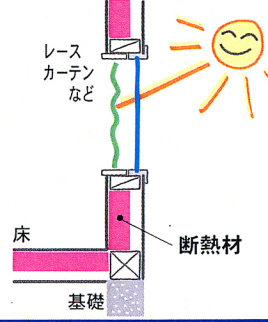
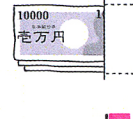
等級2

年間冷暖房負荷
1000MJ/m²年程度以下
※



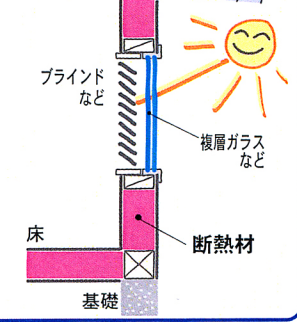
等級3

年間冷暖房負荷
等級2水準の $\frac{3}{4}$ 程度



等級4(最高)

年間冷暖房負荷
等級2水準の $\frac{1}{2}$ 程度



空気環境

ホルムアルデヒド発散等級

内装および天井裏等に使用される建材からのホルムアルデヒド発散量の少なさ

等級1

その他 (建築基準法レベル)

等級2

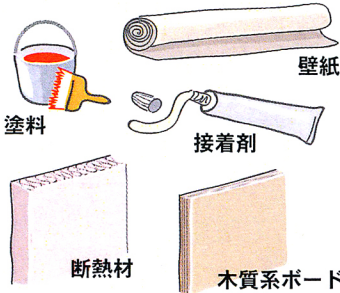
すべての面材が F☆☆等級相当以上の建材を使用した場合

等級3(最高)

すべての面材が F☆☆☆等級相当以上の建材を使用した場合

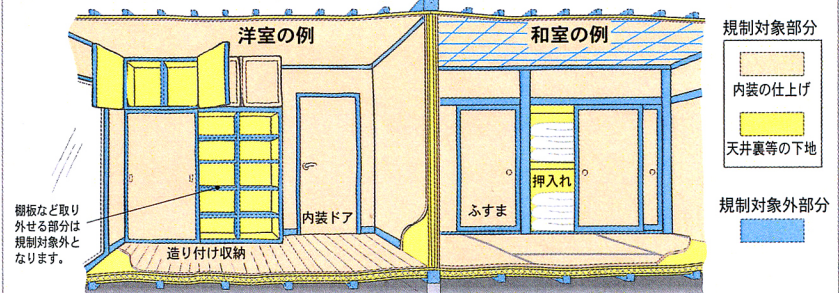
※「F☆☆☆☆」はJS・JASの対象建材における新表示記号です。☆の数が多いほどホルムアルデヒド発散量が少ないことを示します。(最高F☆☆☆☆)

●ホルムアルデヒド発散建築材料の使用制限



※全部で5種類17品目が制限され、それらはF☆☆、F☆☆☆、F☆☆☆☆に分類されています。

●居室の内装の仕上げ材・天井裏等、複数の建材で構成される住宅部品、設備機器等への使用制限



※建築時に設置される住宅部品、設備機器等についても、その構成部材ごとに制限されます。

※その他、居室においては2時間ですべての空気を入れ替える換気措置が必要です。

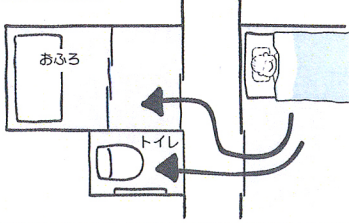
高齢者等への配慮

高齢者等配慮対策等級(専用部分)

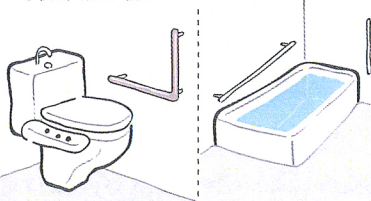
等級1 → 等級5(最高)

住戸内に講じられたバリアフリー対策の程度(下記の要素)を勘案して等級が決まる

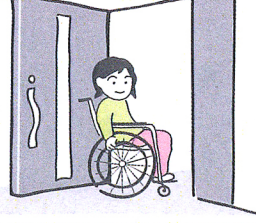
●部屋の配置



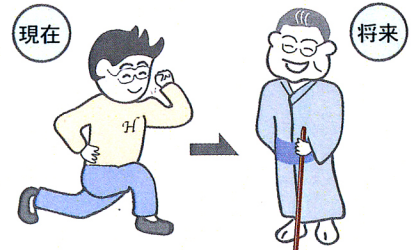
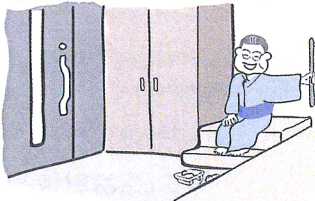
●便所・浴室・寝室



●段差の解消



●手すりの設置



「将来を見据えた設計がなされているかどうか」という観点からも、重要な項目であると言えます。